

令和6年2月13日

令和5年度 第3回

「物流分野における低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会」開催

～ 初めての試みとして、エネルギー会社にご登壇いただき、
小グループでの情報交換を行いました ～

(一社)日本物流団体連合会(真貝康一会長)は、2月7日、全日通霞が関ビルディング(千代田区霞が関)で令和5年度 第3回「物流分野における低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会」を開催しました。



講演を行う出光興産(株)伊井憲一氏

基調講演として、前々回実施した初めての荷主企業講演に続き、今回初めてエネルギー会社にご登壇いただき、出光興産株式会社 CNX戦略室 バイオ・合成燃料事業課 伊井憲一氏を講師に招き、「出光のカーボンニュートラルへの取り組み - SAF (持続可能な航空燃料)、バイオ燃料、カーボンオフセット燃料について - 」と題して講演いただきました。物流事業者にとって SAF・バイオマス燃料の活用は SCOPE1 を低減する貴重な取り組みであるため、講演は会場・オンライン含めて100名以上が聴講し、関心の高さが窺えました。内容も「カーボンニュートラルの取り組み」、「SAF、バイ

オマス燃料の展開」、ならびに「カーボンオフセット燃料」など物流事業者が関心のある内容であり、各種新エネルギーの導入スケジュールについて段階を追って進んでいくこと、バイオ燃料原料を安定的に確保するために行っている取り組みや直面している課題についてもご説明されました。

「世界中で各種新エネルギーが作成されているが、どれも経済性が課題となっている。今後の継続的な技術開発も重要」と現状について丁寧に説明しつつ、特にバイオマス燃料に関しては、「需要があって供給がなされていくため、実際に使用する物流事業者の声を我々エネルギー会社にフィードバックしてもらえるとありがたい。今後どういうことに取り組みたいか、どういうエネルギーを必要としているか、コミュニケーションを継続していきたい」と言及され、講演を終えられました。

講演後は「各種新エネルギーの発熱量はどれくらいか」、「どういった供給体制になるのか」といった具体的な内容について次々に質問が挙がり、質疑応答は20分にも及びました。

続いて同じく初めての試みとして、参加メンバーによる小グループでの情報交換会を行いました。会には引き続き講演後の伊井氏にもオブザーバーとしてご臨席いただき、「2024年問題への直近の自社対応」、「自社のグリーンエネルギー導入状況」を主題として情報交換を行いました。伊井氏にはボランティアクレジットやJ-クレジットについての質問が挙がるなど、情報交換は各グループで盛り上がりを見せ、講師を交えた小グループでの情報交換は有意義なものになりました。

次回の情報交換会は5～6月に開催する予定としており、当連合会ではこの情報交換会を通じ、物流業界全体でのカーボンニュートラル推進の取り組みを進めてまいります。



小グループの意見交換に参加する伊井氏（中央） 自社事例を紹介する郵船ロジスティクス（株）山田貴久氏（左）

以上

事務局 島田